

米スピリット・エアロシステムズ社がMRJのパイロン（エンジン懸架装置）を供給

三菱航空機は、開発を進めている次世代のリージョナルジェット機、MRJ (Mitsubishi Regional Jet) のパイロン（エンジン懸架装置）の設計と製造に、米国スピリット・エアロシステムズ社の参加を決め、このほど契約を結んだ。

スピリット・エアロシステムズ社は、航空機の胴体、翼の一部、パイロン、ナセル（エンジンを覆う囲い）などの設計、製造、組み立てを行なっている世界最大級の民間航空機構造部サプライヤーである。本社をカンザス州ウィチタに置き、カンザスとオクラホマ州、英国およびスコットランドに工場を持つ他、ノースカロライナ州やマレーシアにも工場を建設中で、エアバス、ボーイングの他、数多くの民間航空機メーカーのさまざまなプログラムに参加している。

パイロンは、翼にエンジンおよびナセルを懸架する装置で、スピリット・エアロシステムズは過去数十年間、さまざまな大型旅客機のパイロンを製造してきており、現在製造中のすべてのボーイング旅客機のパイロンは同社が供給している。

スピリット・エアロシステムズ社の上級副社長で推進システムのゼネラルマネージャーを務めるマイク・キング氏は、「スピリットは三菱航空機のパートナーとして、すばらしい新リージョナルジェット機の開発に参加できることを大変嬉しく思っている。我々の質の高い製造能力を三菱航空機とそのパートナー各社に実際に見てもらえるよい機会でもある。この仕事を通して、三菱航空機と長く実のある関係を築いていきたい」と述べた。

当社社長の戸田信雄は、「スピリット・エアロシステムズ社は、旅客機の構造部の設計・製造会社として、世界的な名声を博しており、一緒に仕事できることは大変喜ばしく感じている。世界一流のパートナー各社と共にMRJプロジェクトは、順調に開発が進んでおり、製造に向けて着々と前進している」と語った。

MRJプロジェクトには、スピリット・エアロシステムズの他、最新鋭の高効率エンジン「Pure Power™ PW1000G」^(注1)を供給するプラット・アンド・ホイットニー、パーカー・エアロスペース（油圧システム担当）、ハミルトン・サンドストランド（電源、空調、補助動力などの各システム担当）、ロックウェル・コリンズ（フライト・コントロール・コンピューター、アビオニクス担当）、ナブテスコ（フライト・コントロール・アクチュエーター担当）、住友精密工業（降着システム担当）の各社が主要なパートナーとして参加している。

^(注1) Pure Power™ PW1000G は、以前、ギアド・ターボファン(Geared Turbofan™)エンジンと呼ばれていた。

三菱航空機株式会社について

三菱航空機株式会社は、MRJ の設計、型式証明取得、調達、販売、カスタマー・サポートなどを担当する MRJ 事業会社として 2008 年 4 月 1 日に事業を開始した。現在の資本金は 700 億円で、三菱重工業が 67.5%を出資している。他には、トヨタ自動車 が 10%、三菱商事が 10%、住友商事が 5%、三井物産が 5%を出資している。

MRJ について

MRJ は、三菱重工業がこれまで防衛・民間航空機分野で数多くの開発・製造を行うことで培ってきた、世界最先端の航空機開発・製造技術力をベースに当社が開発する世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた 70～90 席クラスの次世代リージョナルジェット機。リージョナル機として初めて主翼、尾翼に複合材を本格的に採用、新型エンジンの搭載や最先端の空力設計などにより、燃費の大幅な低減を実現、エアラインの競争力と収益力の向上に大きく貢献する。最先端の幹線機技術を適用し、次世代リージョナルジェット機のスタンダードを創造する、環境、乗客、エアラインへ従来にない新しい価値を提供する。

スピリット・エアロシステムズ社について

スピリット・エアロシステムズ社は、航空機構造部分の設計、製造、組み立てを行なっている世界最大級の民間航空機構造部サプライヤーである。本社を米国カンザス州ウィチタに置き、カンザスとオクラホマ州、英国およびスコットランドに工場を持つ他、ノースカロライナ州やマレーシアにも工場を建設中で、エアバス、ボーイングの他、数多くの民間航空機メーカーの胴体、翼の一部、パイロン、ナセルなどのさまざまなプログラムに参加している。また、アフターサービスにおいても、スペアパーツを始め、保守、点検、オーバーホール、フリートサービスなどを、北米、欧州、アジアで提供している。スピリット・ヨーロッパ部門は、エアバスを含む多くの顧客の翼構造部を生産している。

以上